

現場第一で3つの再生すすめる

即戦力

自治体の役割

雇用と福祉を最優先にした道政に



漁業 酪農

TPPに反対して地域経済を守る



酪農家と懇談

TPP（環太平洋戦略的経済連携協定）交渉は、関税を撤廃し、日本の農漁業に壊滅的な打撃を与えます。日本共産党は断固反対をつらぬき、食料主権の確立に力を注ぎます。

価格保障・所得補償とあわせ、新規就労者・後継者が農漁業に従事したら、月15万円の奨励金を3年間支給します。水産加工も積極的に推進します。

松永としお (俊雄)



市議25年の経験を道議会に

日本共産党

広がる期待、今こそ道議会へ



石川 明美



うめつ 則行



村上かすしげ

日本共産党市議団



党政策委員長の小池晃さんと

「仕事がない」「サンマもアキアジも不漁」「高齢者への冷たい仕打ちが身にしみる」……いま、釧路は出口のない閉塞感におおわれているようです。これまでと同じやり方を続けていても、釧路の街は再生できません。政治の世界でも、これまでも変わらぬ顔ぶれでは、何も変えることはできません。だからこそ、道議会の担い手も変えて、新しいまちづくりにより市民みんなで挑むときです

くしろ民報 2010年12月号外
発行所／釧路市住之江町10-1
電話 0154(22)6121

松永としおのブログ公開中
<http://matutosi.cocolog-nifty.com/>

松永としお 物語

白糠町の農家に生まれ、小さいときから農業の手伝いをしました。鉄道が開通するまでは、高校までの15キロを自転車通学していました。

中学生で母親を亡くし、不憫に思った学校の先生が薦めてくれたのが石川啄木の歌集。啄木の世界に大きな影響を受けました。

28歳で市議に初当選。「議会きっての論客」と新聞が書き、建設的提案で市政をリードしてきました。

唯一の国内炭鉱守れ

石炭

自民・社会の両党による炭鉱つぶしに抗して国内唯一の炭鉱を守ってきました。

国内炭の消費拡大に取り組み、海外への技術移転研修の継続・拡大で、世界一の保安技術を内外に広げます。そうした取り組みを重ねながら、国に対して、二〇一二年以降も商業採炭の継続と国内炭の見直しを迫ります。